

提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部 会 名	中学校 総合的な学習の時間部会

1 提案テーマ 『防災教育を通して、自ら考え自ら判断する力を育む』

2 単元(題材) 防災教育(防災巻)

3 学年 第1学年、第2学年、第3学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 探究的な学習としての充実

・探究活動のまとまりとなる単元作成及び地域や学校、生徒の実態等に応じた学習課題の設定の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第4章 総合的な学習の時間 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1(5)学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。

6 実践に向けての課題意識

校内で行った生徒へのアンケートの結果から、本校の生徒は、知識などを理解し身につける力(インプットする力)はあるが、その知識を生かし、自ら考え自ら答えを出す力(アウトプットする力)が足りない生徒が多いことがわかっている。また、本校は、海を目の前に臨み、波打ち際からグラウンドまで100メートル、海拔約3メートルという立地にあり、学区内では大地震の際に津波による大きな被害が予想される。よって、この地域に住んでいる本校生徒たちは、自分の命は自分で守る(自助)力をつけることが必要となる。

そこで、防災教育を通して、自ら考え、自ら判断し、自らの命を守る力をつけることを目指し、今回の実践に取り組んだ。

7 実践の概要

防災巻は、自分を主人公とした物語を作り、様々な時刻や場所、季節や天候に応じて、発災からの時間経過の中で、自分の周辺で起こる災害状況を具体的にイメージし、災害が起きた時に自分が生きるためにはどうすればよいかを考えさせる手法である。授業では、まず災害の状況をイメージできるように、画像や動画、地図ソフトを使って災害時の状況を確認させ、防災巻を各個人で作成する。作成した防災巻を班で検討して話し合いを行う。その後、作成した防災巻を自ら再検討し、修正していく。また、今できる災害対策は何かを考えさせる。

8 成果と課題

○学習者の成果

防災巻について学習する前のアンケートでは、「なんとかなると思っていた。」「周りの大人の意見に従えば良いと思っていた。」「海から離れるだけで良いと思っていた。」などという考えが多く書かれていた。しかし、学習後には、「防災は“した方がいい”から“しなければならない”へ」「他人の様子をうかがうのではなく、率先して避難すること」「自分の身は自分で守ること」「自ら判断し生き抜こうとすること」等の意識の変化が見られた。また、あいまいな避難方法ではなく、具体的な避難方法を家族と話し合う必要があると感じ、いろいろな状況の想定が考えられるようになった。これらのことから、防災に対する意識が向上し、いつ、どんな場所でも、自ら考え自ら判断し避難するという意識をもてるようになった。

○課題として考えられること

- ・職員の研修、授業時間の確保や計画が必要。
- ・災害から避難には、地域に住む人たちの理解や連携が必要。防災リーダーの育成(共助)。

9 予想される協議の柱

・思考力、判断力、表現力等を育む学習プロセスづくりの工夫